

## 野球を通じて国際交流を

今回は、野球を通じ母国スリランカと日本との橋渡しを実践しているスジュー・ウィジャヤナーヤカさんにインタビューしました。

スリランカで日本の野球と出会い、その素晴らしさに触れ、もっと野球を学びたいと日本に留学、現在は日本で働きながらスリランカにおける野球の普及に努めておられます。

スジューさんから見た日本について、熱く語っていただきました。

### ■ 野球との出会い

私は、高校生の時、母国のスリランカでJICA青年海外協力隊の隊員の植田(一久)さんに出会い、日本の野球と出会いました。野球のルールは世界共通ですが、日本の野球はルール以上に、マナーやあいさつ、相手を思いやるということを大切にしていると思います。植田さんからは、野球はスポーツであると同時に、人として大切なことを学び取る学習の場であると教わりました。

植田さんから野球を学んだ私は、野球はただのスポーツではなく、心と心をつなぐものなんだと実感しています。他の国の野球は、勝ち負けを争うことが最大の目的ですが、日本ではそれ以上に「仲間を信じる心」、「仲間を守る気持ち」、そして「あきらめない心」を大切にしていると思います。

### ■ あきらめない気持ち

植田さんからは、野球の技術の他に「あきらめない」ということを教わりました。道具がないから、設備がないから「できないのは仕方ない」という姿勢ではなく、ないのならあるもので「やってみよう!」、「頑張ってみよう!」という心意気があれば、できるということです。

スリランカでは、野球をするためのバットもない、グラブもない、もちろん整備されたグラウンドもないことが普通です。しかし、そんな「ないないづくし」の中でどうしていくかという精神的なことを学びました。私も簡単にあきらめるのではなく、前向きに頑張ってみようというふうに自分自身が変わっていったと思



ます。物事に対する私自身の姿勢が変わることで、行動もまた変わっていきま

### ■ そして、日本へ

スリランカで野球を通じて日本人と交流することで日本に対する関心が一層強くなり、念願がかなって日本に留学することになりました。「日本で野球をしたい」、「スリランカで学んだこと・感じたことが本当なのか、自分の目で確かめたい・感じたい」と思っていたので本当にうれしかったです。

私の国の子どもたちや仲間にも、私と同じように前向きになってもらいたいと思ったのが、スリランカに野球道具を援助する活動を始めたきっかけでした。「あいさつを大切に」、「仲間を思いやる」など、野球で培われた精神は、野球をやめたあとでも人生の中で活かすことができます。チームワークを大切に、仲間とともに頑張ることが、社会貢献にもつながるということを、スリランカの子どもたちに伝えたいのです。

### ■ 野球を通じて

私は野球を続けたかったので、留学後も大学の野球部に入部しました。でも、「言葉が分からない」、「野球の技術が追いつかない」などいろんな理由があって、一度は野球から距離をおいたのです。ただ、野球に携わっていたいという思いは強くありました。そんなとき、JICA青年海外協力隊の後田(剛史郎)さんから、「合同審判講習会に参加してはどうか?」と声をかけていただきました。

野球にかかわり続けるチャンスだと思い、講習会を受講する決心をしたのです。当時は、日本語の習得が十分でなかったので講習内容を理解することが難しく、かなり苦しかったのですが、くじけないことで、新しい道が見えてきたのです。また、講習会の仲間が私にも分かるように、何度も何度も教えて助けてくれました。相手の立場に立って考えるということが、自然にできるのが日本人だと心から感激したことを覚えています。選手として野球を続けることはできなかったのですが、審判として今も大好きな野球と関わっていただけるのも、素晴らしい仲間や先生に出会えたおかげだと思います。

### ■ 私なりの国際交流を

日本には「義理人情」という言葉がありますね。私の好きな言葉のひとつですが、実は私の国、スリランカにもよく似た意味の言葉があるんです。ですから、野球を通じて、お世話になった方や日本、それに母国スリランカにも何か恩返しをしないといけないと考えるようになりました。スリランカで日本式の野球を普及させることで、日本とスリランカを結ぶ「架け橋」になりたいと思っています。

今職場で、たくさんの同僚とともに働いています。時には、地区内の他のホテルに足を運んで、アドバイスすることもあります。

そんな時、悪い点や改善点を指摘するだけではよくならないものです。よい点を見つけて褒める、改善点を注意してよい結果が出たときにはそれを認めることが大切だと学びました。日本では、相手が分かるまで何度でも教えるという風土があります。私自身、そのおかげで今こうして、日本で働いて生活して




いるのです。この考え方を、日本式の野球の精神とともにスリランカに伝えていきたいと思っています。

### ■ これからの夢

困難なことを高い山にたとえると、高い山に登ると今まで知らなかった新しい景色が見えると同時に、その山の向こうにさらに高い山が見えてくると思うのです。いつも、その次の高い山を目指す自分でいたいと思っています。

日本人から学んだ「あきらめない」という気持ちを大切に進んでいけば、どんな困難なことであっても必ず協力してくれる人が現れます。「人間」という字は、人と人との間に人が存在することを表していると思います。人は、ひとりでは何もできないけれど、ひとりが誰かのために力になりたいと行動を起こせば、同じ志を持つ仲間が、必ず現れると思います。

私が日本の皆さんから夢をもらったように、今度は私がスリランカの子どもたちに夢を与えるため、そしてスリランカの野球を発展させるため、これからも挑戦し続けたいと思っています。



**Profile**      **スジュー ウィジャヤナーヤカ さん**

1983年7月	スリランカ生まれ
2002年	アーナンダ カレッジ高校卒業(スリランカ)
2006年	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部入学
2010年	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部卒業
2010年4月	株式会社アメイズ入社(旧社名亀の井ホテル)
	※現在はHOTEL AZ福岡北九州地区の地区長
☆アジア野球連盟所属国際審判員	☆スリランカ野球連盟日本コーディネーター
☆スリランカ野球連盟会長	☆スリランカ野球連盟技術委員